

## 台湾珈琲紹介



19世紀は台湾コーヒー初めての黄金時代であった。

1902年、日本統治時代の台湾総督府は、台湾の雲林、嘉義、東部などの地域に珈琲の栽培試行を始めた。当時はアラビカ種、ロブスタ種、リベリカ種の3種類が主に栽培されており、この頃から台湾はコーヒーの産地となった。

1945年、台湾コーヒーの生産面積は967ヘクタールに達し、台湾コーヒーの生産史上最高となり、台湾コーヒーの全盛期とも言われた。

1999年「921大地震」は台湾中部に大きな災害をもたらしたが、同時に台湾コーヒーに希望の光ももたらした。地方自治体は、コーヒー豆の栽培を推進し、農家の変革を指導し、観光コーヒー農園を開発するために動き始めた。台湾のコーヒー農家達もその復興の波に乗り、「台湾コーヒー」の栄光を再び取り戻す。その後、台湾のコーヒー農家は世界に進出し続け、スペシャルティコーヒーの域まで品質を高め、国内外のコンテストで賞を獲得している。2021年は、短編映画『初めての珈琲』の発信によって、台湾スペシャルティコーヒーは日本市場へと本格的な進出を果たした。

2022年、台湾は更なる市場拡大を目指し、台湾スペシャルティコーヒー業界の大きなイベントを開催する。

# 台灣 珈琲祭り

オススメ台湾珈琲10農園

素敵な珈琲体験



台湾珈琲祭りオフィシャルサイト  
<https://www.taiwancoffee.tw/ja>



主催：  
台湾行政院農業委員會水土保持局南投分局



企画・運営：  
索爾視覺效果股份有限公司



